

Topics

# トピックス

初夏の歴史散歩の様子をレポート!



▲三光寺 紀尾井町事件の首謀者たちの集会の場

歴史散歩(年2回実施)  
ご参加について

友の会「れきはくメイト」にご入会いただくと、どなたでもご参加いただけます。  
ご関心のある方は、普及課(076-262-3417)までお気軽にお問合せください。※応募者多数の場合は抽選

## 2018 6/11月 れきはくメイト初夏の歴史散歩

「野町・寺町の寺院群をめぐる 一明治維新関係史跡を中心に」

今回は、激動の幕末維新期を生きた加賀藩士ゆかりの寺院を中心に野町・寺町の寺院群を訪ねました。現地には当時の関係品はほとんど残ってませんが、元治の変(蛤御門の変)における世子慶寧の対応の責任をとって近江海津で切腹した加賀藩家老松平大弑や処刑された勤王の志士、大久保利通暗殺を実行した石川県士族たちの生涯に思いを馳せるとともに、お寺に伝わる貴重な文化財を見学し、地域の歴史について学びました。

### 【散歩コース】

- 蛤坂
- 妙慶寺(浄土宗)
- 承証寺(法華宗)
- 三光寺(浄土宗)
- 金剛寺(曹洞宗)
- 西方寺(天台真盛宗)

## 次回展覧会のお知らせ

## Upcoming Exhibition

秋季特別展

### 歌舞伎衣裳 綺羅をまとう

※10/15(月)は閉室  
※前期・後期で展示替えを行います

前期 9/22(土)~10/14(日) 後期 10/16(火)~11/11(日)



▲波瀾に龍文様陣羽織(背面部分)  
(金沢市・梅若演劇衣裳店蔵)

「綺羅」とは「美しい衣服」を指す言葉ですが、特に歌舞伎衣裳のことを「綺羅」と呼ぶことがあります。常ならぬ美しい衣裳は、舞台上で観客の目を惹きつけるだけでなく、男性を女性へ、人間を超人的な力を持つヒーローへ変身させる、重要な仕掛けの一つでした。

秋季特別展では、金沢で現在確認できる唯一の歌舞伎衣裳として、芝居小屋「福助座」ゆかりの衣裳30点あまりを公開します。興行師の梅若によって経営された福助座は、明治後期から大正期にかけて市内中心部ににぎわいを生み出し、嵐冠十郎ら地役者を育て、地域文化に大きな影響を与えました。芝居番付などの関連資料とともに、金沢における歌舞伎興行の様相をたどります。

あわせて、江戸城大奥で活躍したお狂言師の衣裳、明治~昭和期の名優の衣裳から、各地の芝居小屋、農村歌舞伎で使用された衣裳まで一堂に展覧し、歌舞伎衣裳の魅力を紹介いたします。

広告

## フレッツ光で賢くインターネットを始めませんか?



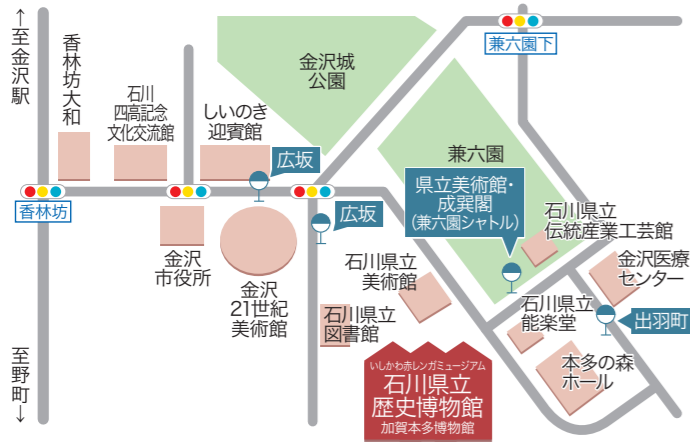
- ✔引越しの予定がある
- ✔CSTVに興味がある
- ✔インターネットの料金が安い
- ✔インターネットの速度が気になる

※「フレッツ光」とは、「フレッツ光ライト」、「フレッツ光ネクスト」および「Bフレッツ」(いずれもインターネット接続サービスの総称です)。  
※NTT西日本の設備状況などによりサービスのご利用をお待ちいただく場合や、ご利用いただけない場合がございます。  
※インターネットのご利用には、フレッツ光の契約に加え、別途プロバイダーとの契約が必要です。(別途月額利用料等がかかります)

詳しい内容お問い合わせ 受付時間/9:00~21:00(年末年始を除く)  
NTT西日本販売代理店株式会社エイス・コミュニケーションズ

0120-949-388

原稿管理番号:REV0000224



いしかわ赤レンガミュージアム  
石川県立歴史博物館  
ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-1  
TEL:076-262-3236 FAX:076-262-1836  
E-mail:rekihaku@pref.ishikawa.lg.jp  
http://ishikawa-rekihaku.jp/



石川

ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

# れきはく

No.126  
2018.7.18



三重県雲出川下流域遺跡群 銅鐸  
(津市教育委員会蔵)



群馬県神田・三本木古墳群  
人物埴輪  
(藤岡市教育委員会蔵)

平成30年度 夏季特別展

## 発掘された日本列島2018

Exhibition of Excavations in the Japanese Archipelago 2018

平成30年 8/4(土)▶9/9(日)

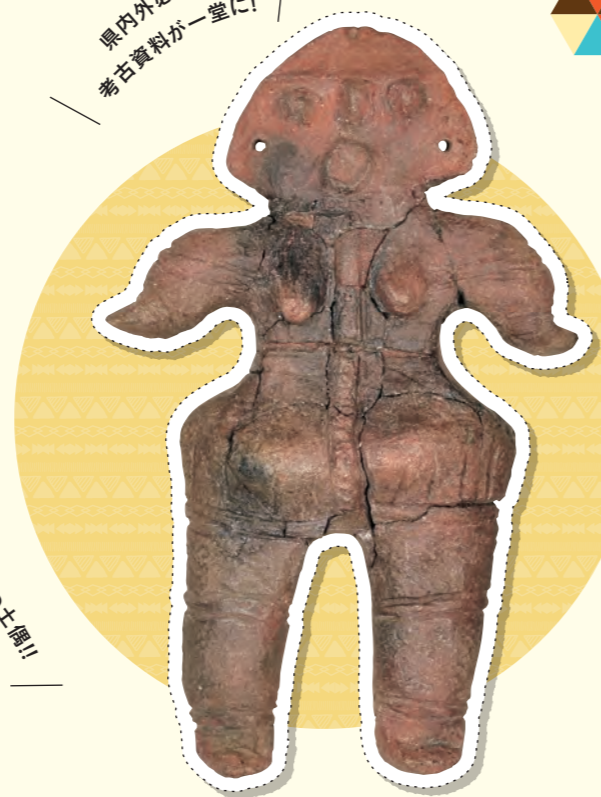


# 発掘された 日本列島 2018

平成30年 8/4(土) ▶ 9/9(日)  
【37日間】※会期中無休



みみずく形の土偶!!



県内外必見の  
考古資料が一堂に!

▲千葉県加曾利貝塚 土偶(千葉市立加曾利貝塚博物館蔵)



ふしぎな形の土器

▲千葉県加曾利貝塚  
異形台付土器(千葉市立加曾利貝塚博物館蔵)

「発掘された日本列島」展は、全国各地で行われている発掘調査のなかから、特に注目を集めた成果を紹介する目的で平成7年より毎年開催されています。今年で第24回を迎えますが、石川県での開催は、当館で平成16年に開催して以来、14年ぶり2回目の開催になります。

今回の「発掘された日本列島2018」は、全国を巡回する中核展示の「新発見考古速報」と「特集展示」、さらに、石川県でのみ開催される地域展示「いしかわ歴史発掘」の3つの展示構成になっています。



- 展示構成**
- 1 中核展示(全国巡回展)  
①新発見考古速報 ②特集 装飾古墳を発掘する!
  - 2 地域展示「いしかわ歴史発掘」

**観覧料** 一般800(640)円・大学生640(510)円・高校生以下無料  
※( )は20名以上の団体料金 65歳以上の方は団体料金(特別展・常設展セット料金)一般880円・大学生700円

**会場** 石川県立歴史博物館 特別展示室・企画展示室

## 中核展示 全国巡回展 —— 近年注目の遺跡を展示 —— 新発見考古速報

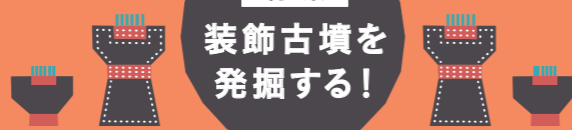
日本全国で毎年約8000件の遺跡の発掘調査が行われています。このうち、近年発掘された遺跡や成果がまとまった遺跡17ヶ所を紹介し、その出土品や復元模型など546点を展示します。展示する遺跡は、旧石器時代から近代まで幅広い時代におよび、石川県では目にする機会の少ない弥生時代の銅鐸や古墳時代の人物埴輪も出品されます。

今回、特に見どころとなる遺跡は、加曾利貝塚(千葉県)です。日本最大級の縄文時代の貝塚で、長年の調査成果がまとまり、平成29年に史跡のなかでも特に重要な「特別史跡」に指定されました。展覧会では、食料となった貝が堆積した土層や埋葬された縄文犬、儀式に使われたとみられる土偶や異形台付土器などが展示されます。

金井東裏遺跡(群馬県)は、榛名山の山麓にあり、古墳時代に榛名山の噴火で埋没した遺跡です。火山の噴火で埋もれた古代ローマの都市、ポンペイと同じように、この遺跡でも火砕流の下から古墳時代の人びとが発見されました。一人の男性は甲冑を身に着けた状態で見つかり、日本初の発見となりました。この出土状況の実物大の模型や冑などが展示されます。

### 特集

### 装飾古墳を 発掘する!



この展覧会では、特集展示として、古墳時代の装飾古墳が取り上げられます。装飾古墳は、墓室の内部が鮮やかな彩色や文様で飾られた古墳のことで、国内で600基以上が確認されています。人物や動物、盾や鞍(矢入れ)といった武器などの文様が、線刻・浮彫・彩色で表現され、当時の世界観や葬送儀礼を知るうえで貴重な価値をもっています。装飾古墳は九州地方に多く、東北地方南部まで分布していますが、古墳文化の中心地であった近畿地方には少なく、各地で独自の展開をみせたため、古墳時代の地域差もうかがうことができます。

装飾古墳の壁画は、暗く閉ざされた古墳内部の墓室にあり、劣化や退色を防ぐ保存処置が講じられてきました。また、東日本大震災や平成28年熊本地震で多くの装飾古墳が被災し、その復旧も進められています。特集展示では、7つの代表的な装飾古墳を取り上げ、その魅力と保護の取り組みを紹介します。



## 地域展示「いしかわ歴史発掘」

石川県でも、近年、北陸新幹線の建設や史跡整備等にもなう発掘調査で新しい発見が相次いでいます。全国巡回展にあわせて、石川県内の遺跡の調査成果をまとめて紹介する地域展示「いしかわ歴史発掘」を同時に開催します。

昨年の発掘調査で、八日市地方遺跡(小松市)から、弥生時代中期前半(約2300年前)の柄付き鉄製鉈が発見されました。木製の柄が完全に残った弥生時代の鉈は日本初で、日本に鉄器が普及する以前の時期にあたり、大陸からもたらされたとみられます。

能美市能美古墳群  
刻書須恵器  
(能美市教育委員会蔵)



小松市八日市地方遺跡  
柄付き鉄製鉈  
(石川県埋蔵文化財センター蔵)

昨年発掘  
されました!

また、能美古墳群(能美市)で発見された日本最古の刻書須恵器、加茂遺跡(津幡町)で出土した古代の「お触書」、加賀郡勝示礼(重要文化財)、野々江本江寺遺跡(珠洲市)の木製板碑・笠塔婆(県指定文化財)など、全国的にみても希少な出土品を公開します。さらに、金沢城跡(金沢市)や九谷磁器窯跡(加賀市)など、江戸時代の遺跡で明らかになった最新の調査成果も紹介します。



9/2(日)まで展示 津幡町加茂遺跡 加賀郡勝示礼  
(重要文化財、石川県埋蔵文化財センター蔵)





## 学芸員コラム Column

# 金沢城下の町並み模型 制作秘話

学芸主任 塩崎 久代



▲城下町金沢のくらしと町並み模型 縮尺:1/40

近世の展示コーナーでは、「金沢城下図屏風」(本館蔵)に描かれた金沢城下のにぎわいの様子を模型で紹介しています。

この模型は2015(平成27)年の展示リニューアルに際して作られたもので、犀川大橋の中程から宮竹屋伊右衛門家(現在の片町スクランブル交差点付近)までの町家15軒と人物・動物が表現されています。

### 二次元の絵を立体化するのは至難の業

模型の復元にあたっては、監修を山崎幹泰氏、町家の復元設計を橋本浩司氏、橋の復元設計を安達實氏にお願いしました。現存する図面や古写真、町家建築などの調査を行い、屏風に描かれている江戸後期の金沢城下を立体化するための情報を集め、検討を重ねました。模型は町家の内部が正面から見えるように展示してありますが、屏風の絵は斜め上から俯瞰して描かれていて内部が見えないため、建物内部、奥の方の多くは推定復元です。史料に忠実な模型を作ろうとすると、屏風に描かれている世界との矛盾が生じることがあり、二次元の世界を立体化することの難しさを痛感しました。

町家の商売にも注目してみましょう。模型で復元した範囲は、江戸時代の金沢を代表する繁華街だったため、宮竹屋喜左衛門(酒造業)、宮竹屋伊右衛門(薬種業)のように、商売が特定できる家もありました。ところが、現存する関連史料には町家の所有者と間口の情報が載っているだけで、多くの町家は屏風に描かれている商品や店構え、暖簾の色・種類といった情報を最大限に活用しながら、商売を特定させていきました。

これは瀬戸物商を営む商家の店先ですが、町家の商売は絵の描写と史料とをつきあわせながら、一つひとつ検証して復元されています。



▲模型

金沢城下図屏風(部分)▶

### 赤ちゃんからお年寄りまで201人!

模型で使用された人形の数は201人(動物を除く)。40分の1の縮尺では、人形の動きや表情を細部まで表現できるので、全ての人形の推定年齢や小道具の確認作業が必要になりました。絵から性別や身分が判断できない場合もありましたが、場面や服装・髪型などにより推定されました。

### 人形の目線で見るとがオススメです

大人の目線では、町家の「石置き屋根」ばかりが目に入りますが、人形の目線で見ると、その時代にタイムスリップしたかのような臨場感を味わうことができます。表情豊かな人物や動物たちの動きに注目しながら、耳を澄ますと…「ガヤガヤ」、「ワンワン」と犬の鳴き声や、木造の犀川大橋を渡る馬の足音、行商人の声、皿回しに熱中する子どもたちの声、息をきらしながら大きな材木を運ぶ人足の声、謡稽古の音などが聞こえてきます。

### 屏風に描かれていないものがひそんでいます

この模型には、屏風絵には描かれていない酔っぱらいの男性たちと鳥4羽、ネコ1匹がひそんでいます。

よかったら展示室で探してみてくださいね。



## 教育プログラム

Educational Program

楽しく学べる企画をご用意しています!

### 春季特別展関連イベント 多色摺り版画をつくってみよう

春季特別展「明治維新と石川県誕生」の関連イベントとして、ゴールデンウィークの土・日・祝日に多色摺り版画を作るワークショップを開催しました。現代のような機械印刷の技術がない時代に、どのようにして色鮮やかな刷物を作っていたのかを体感していただくことを目的に企画されたものです。

図柄は特別展で展示された刷物のうち、戊辰戦争の様子が描かれた錦絵「毛理嶋山官軍大勝利之図」と紀尾井町事件(大久保利通暗殺事件)の首謀者たちの姿が描かれた絵草紙「梅雨日記」の一場面の2種類から選んでもらいました。

はじめに「4つの色を重ねていくので、紙の位置がずれないようにしっかりと固定しましょう。」とスタッフが作業

手順ときれいに仕上げるためのコツをレクチャーします。レクチャーが終わると、淡い色のインクからローラーで版に色を付け、その上に紙を載せ、力を加減しながらパレンでこする作業を3回繰り返します。最後に一番濃い黒色のインクを重ねて、完成です。

インクが乾くまでに時間がかかりますが、作業時間はおよそ10分。写真に写っているお子さんたちは、こどもの日に家族そろって参加してくれました。最後の工程が終わり紙をめくると、「わあー!」と歓声が起こり、うれしそうに完成品をながめていました。今回のワークショップでは、小さなお子さんから大人まで320名の方にご参加いただきました。ご参加くださった皆様、ありがとうございました!

(学芸主任 塩崎 久代)



作業の様子▶



完成品を持って記念撮影(2018.5.5)▶

## 催し物案内 Information

展示解説や各種講座などの情報をお知らせします。(各種催し物の詳細については、当館ホームページにてお知らせします。)

### 7月

21日 れきはくゼミナール  
(土) テーマ「青年時代の長谷川等伯」  
講師:北 春千代(学芸主任)

26日 古文書講座(前期第3回)  
(木) テーマ「加賀藩領の百姓たち」  
講師:濱岡 伸也(学芸主任兼資料課長)

27日 学芸員によるワンポイント解説  
(金) テーマ「武士の近代」  
講師:石田 健(学芸主任)

### 8月

休館日 8/2(木)・8/3(金)

18日 れきはくゼミナール  
(土) テーマ「古墳壁画の世界観」  
講師:三浦 俊明(学芸主任)

23日 古文書講座(前期第4回)  
(木) テーマ「加賀藩領の百姓たち」  
講師:濱岡 伸也(学芸主任兼資料課長)

24日 学芸員によるワンポイント解説  
(金) テーマ「法住寺・白山神社の神仏習合」  
講師:岡崎 道子(学芸員)

### 9月

休館日 9/10(月)・9/11(火)・9/20(木)・9/21(金)

15日 れきはくゼミナール  
(土) テーマ「俱利伽羅長楽寺の江戸復興」  
講師:塩崎 久代(学芸主任)

28日 学芸員によるワンポイント解説  
(金) テーマ「明治天皇に献上された不思議な石器」  
講師:戸潤 幹夫(学芸主任)

### 学芸員によるワンポイント解説 全11回

要観覧料 時間 13:30~14:00  
申込不要 場所 展示室

毎月1回、金曜日に実施している展示解説。当館の学芸員が博物館のみどころを紹介しします。

### れきはくゼミナール 全11回

受講無料 時間 13:30~15:00  
申込不要 場所 ワークショップルーム

毎月1回、土曜日に実施している博物館講座。当館の学芸員が独自のテーマを設定し講義します。(3月は2回)

### 古文書講座 前期4回・後期3回

受講無料 時間 13:30~15:00  
要申込 場所 ワークショップルーム

当館の学芸員が古文書の読み方や内容を解説します。  
※前期分の申し込みは終了しました。